

2013年9月19日

各 位

薬剤部／薬品情報室（D I 室）

D I ・ BOX # 0 7 1 8

「ミニリンメルトOD錠」における低ナトリウム血症について

ペプチド系抗利尿ホルモン用剤「ミニリンメルトOD錠」（協和発酵キリン）は、2012年5月の発売から2013年8月31日までに、自発報告として「低ナトリウム血症」が8例報告されました。その内、7例が70歳以上の高齢者であり、5例が「夜尿症」で、2例が適応外で使用していました。

本剤の使用にあたっては、以下の事項に注意してください。

【患者及び家族への説明・指導】

- ・投与の2～3時間前（夕食後）より翌朝迄の飲水は極力避ける*
- ・過度に飲水してしまった場合は本剤の投与を行わない
- ・急性疾患（全身性感染症、発熱、胃腸炎等）を合併している場合、本剤の投与を中止*
- ・**水中毒を示唆する症状（倦怠感、頭痛、悪心・嘔吐等）**があらわれた場合、直ちに投与を中断し、速やかに医師に連絡する

【使用上の注意】

- ・投与中は**血清ナトリウム値に注意**
（1週間以上続ける場合、**血漿浸透圧及び血清ナトリウム値の検査を実施***）
- ・投与中は**患者の状態を観察し、水中毒（低ナトリウム血症）を示唆する症状（倦怠感、頭痛、悪心・嘔吐等）**の発現に十分注意する（**定期的（1ヶ月毎）に実施***）
- ・**漫然と投与しない**
（**定期的（3ヵ月前後）**に治療を1～2週間中止して患者の夜尿状況を観察*）

* 「夜尿症」における注意

【適応症／用法・用量】本剤は規格により適応症が異なるため注意して下さい。

- ・ (120 μ g、240 μ g) **尿浸透圧あるいは尿比重の低下に伴う夜尿症**：1日1回就寝前120 μ gから経口投与し、効果不十分な場合、1日1回就寝前240 μ gに増量可
- ・ (60 μ g、120 μ g、240 μ g) **中枢性尿崩症**：1回60～120 μ gを1日1～3回経口投与。患者の飲水量、尿量、尿比重、尿浸透圧により適宜増減、1回投与量は240 μ gまで、1日投与量は720 μ gを超えない

*詳細・不明な点につきましては医薬品情報室（3194）までお問い合わせください。

* 「DI・BOX」は電子カルテ（EGMAIN）の掲示板およびイントラネットで参照・検索できます。